

編修趣意書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学校	教科	科目	学年
29-68	中学校	道徳	道徳	3年
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
11学図	道徳 922	輝け 未来 中学校道徳 3年		

I 編修の基本方針

教科書を通して、さまざまな課題をもつ現代社会を生きる子供たちに夢や希望、そして誇りをもって生きることの価値を感得させることを目指して編集しました。

未来に「生きる」ことの意味・喜びを、自ら感じ、自ら考える

◎豊かな情操と道徳心を培うために (第1号)

さまざまな見方や考え方を包含する、夢や希望、よりよい生き方を模索することができる題材を通して、生徒各自の課題意識や、多面的・多角的な思索に資する教材を作成しました。

また、教科書編修に際しては、「生きていること」「生かされていること」、そして「よりよく生きようとすること」についての見方・考え方を深める学習のために、以下の四つのつながりを柱として教材を選定し、「考え、議論する」道徳の授業に資する教科書を目指しました。

大切にしたい四つのつながり



これらの“つながり”をもとに、学校の教育活動全体を通じた調和的な学びができるように、特に意を用いて編修しました。

※アイコンについては、本趣意書 p.3 参照。

1 「命」のつながりを考える

—命あるものとして「生きる」こと—

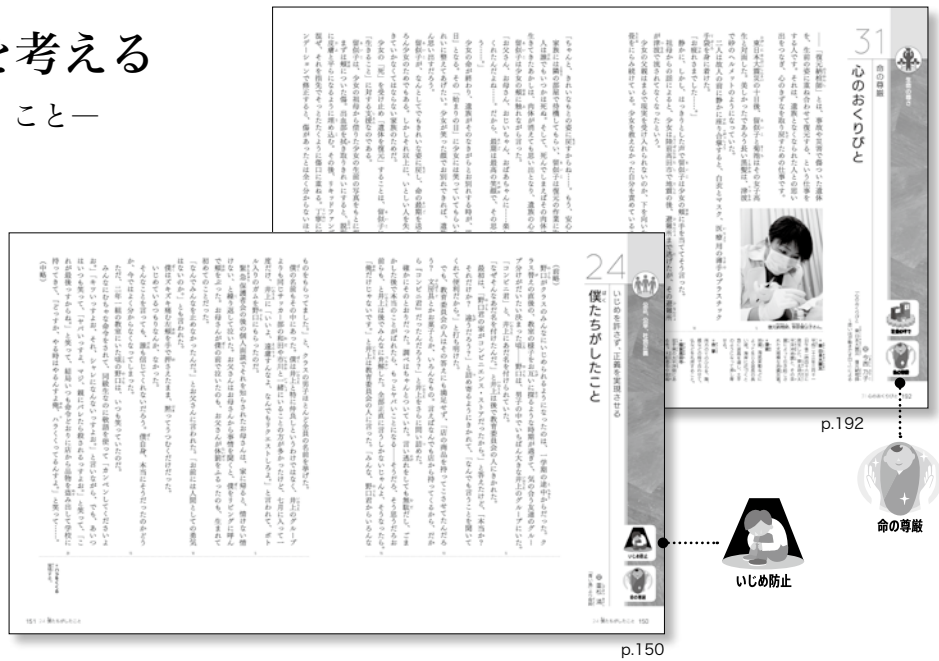
- 生命のもつ神秘性・連続性・有限性、生命に対する畏敬の念、など、かけがえない生命の尊重を最重要項目ととらえ、各学年複数の感動を覚える教材を用意しました。

- また、現代的課題として考えるべき、「いじめの防止」「安全の確保」「科学技術の発展と生命倫理との関係」も積極的に取り扱い、多様な考えをもとに自らの判断力を養える教材を設けました。

教材の例

公平、公正、社会正義
「僕たちがしたごと」 ほか

生命の尊さ
「心のおくりびと」 ほか



2 「人・社会」とのつながりを考える

—社会生活の中で「生きる」こと—

- 家族・親類や友達との関係、また学級・学校、地域の中で生きていることを理解するとともに、集団や社会の一員として、将来社会を築いていく一人として、自分の考えを深められる教材を開発しました。

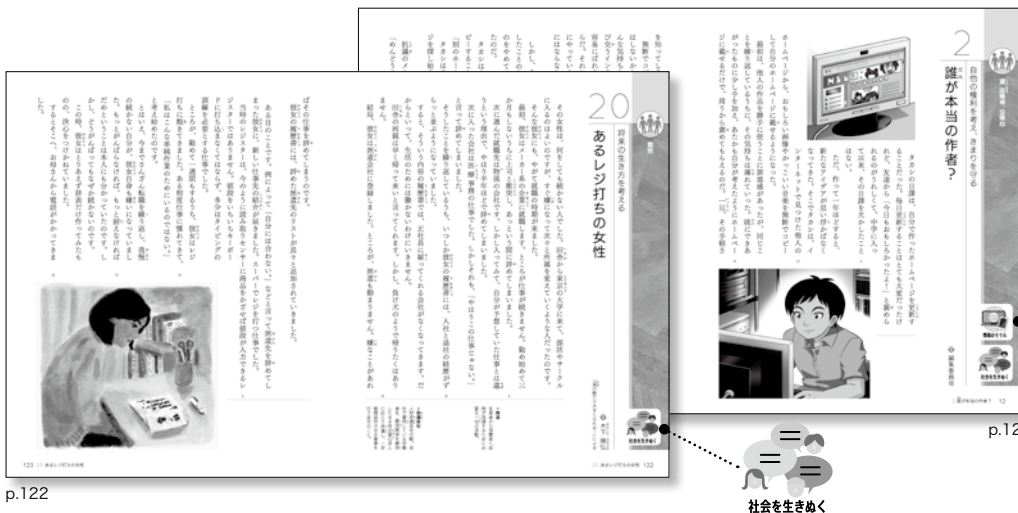
- このテーマを考える上で、「情報化への対応、情報モラル」「社会参画」を重要な課題ととらえ、教材を選定しました。

教材の例

自主、自律、自由と責任
「誰が本当の作者？」 ほか

社会参画、公共の精神
「ゴミ収集車」 ほか

勤労
「あるレジ打ちの女性」 ほか



3 「世界・文化」とのつながりを考える

—過去から現在、そして未来（時間軸）へ。
また、地域から日本、そして世界（空間軸）に向かって「生きる」—

- 時間の縦軸、空間の横軸の中で、今ある自分、めざす自分を考えられるよう、我が国や各地の「伝統と文化」「先人の伝記」を中心に教材を開発しました。

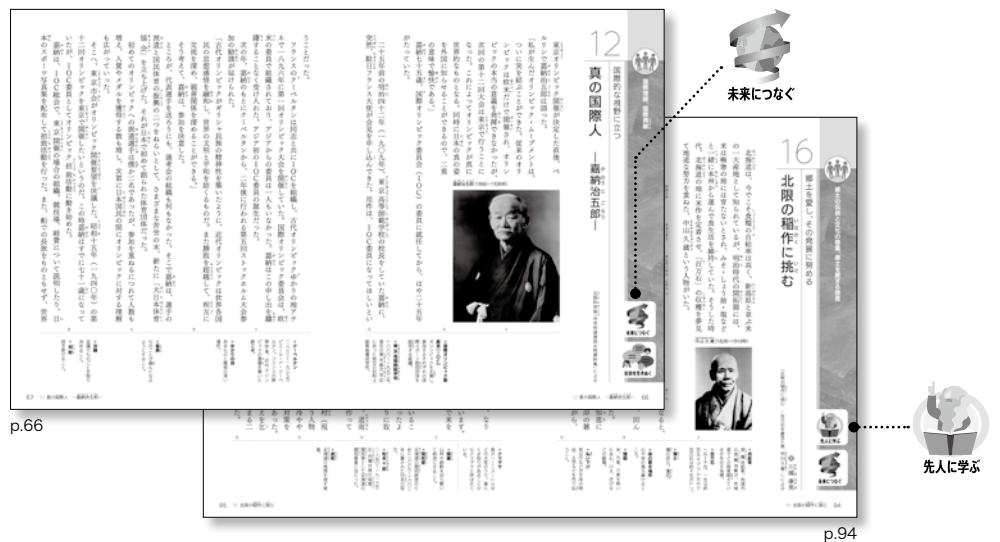
- また、来るべき2020年東京オリンピック・パラリンピックを意識し、「スポーツ（オリンピック・パラリンピック）」にも注目して教材を選定しました。

教材の例

郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度
「北限の稲作に挑む」 ほか

我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度
「命に響く『雅楽』」 ほか

国際理解、国際貢献
「真の国際人 —嘉納治五郎—」 ほか



4 「自然・環境」とのつながりを考える

—自然・環境と共に「生きる」こと—

● 広い宇宙の中の、豊かな地球、自然の恵み、限られた資源と共に生きている私たちであることを深く理解し、それらを守っていかうとする心と態度を育てる教材を用意しました。

● また、私たちを取り巻くすべての事物に、感謝の念や感動をもって生きることの大切さを学べる教材を開発しました。

教材の例

郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度
「北限の稲作に挑む」ほか

自然愛護

「森に起きていること」

感動、畏敬の念

「瑠璃色の星」

35 瑠璃色の星
11 森に起きていること
未来につなぐ
社会を生きぬく

課題意識をもち、自ら多面的・多角的に考える深い学びへ導く

発問

発問マークを付けて、授業での扱いを明示しています。

考えよう

教材にある、大事なことに注目したり問題を見つけたりする発問。

考えよう

大事なことについて、見方を広げたり考えを深めたりする発問。

見つめよう

大事なことを自分自身のこととして見つめる発問。

意見交換

さまざまな見方や考え方を話し合ったり、話し合ったりする発問。

● 役割演技などの体験的な活動も示唆しています。

主題 課題に向かう姿勢をつくります。

視点

内容項目

社会を生きぬく

10のポイントマーク

心の扉

道徳的価値を深めたり、多面的・多角的なものの見方や考え方を促したりするページで、授業の導入または終末で活用します。

II 対照表

◎…総則に示された重点項目 ○…弊社で設定した重点項目

	図書の内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
<p>A 主として 自分自身に 関わること</p>	<p>◎自主、自律、自由と責任 →自律の精神を重んじ、自主的に考え、判断し、誠実に実行してその結果に責任をもつこと。</p> <p>○節度、節制 →望ましい生活習慣を身に付け、心身の増進を図り、節度を守り節制に心掛け、安全で調和のある生活をする。</p>	<p>●自分の行動行為が、自分自身や他者に対してどのような結果をもたらすかを深く考え、判断し、責任のある行動をしようとする態度を養います。(第2号、第3号)</p> <p>●自分自身や周囲の安全に対する思慮深い行動が、自分や周囲の安全を守ることに気づかせ、節度を守り節制に心掛けて心身の健康や安全に配慮した生活を送ろうとする態度を養います。(第1号)</p>	<p>●言葉の向こうに (p.6) ●ドラッグは二つの顔をもつ (p.130)</p> <p>●受験生あっこの日記 (p.54) ●稲むらの火と堤防 —浜口梧陵伝— (p.78)</p>
<p>B 主として 人との関わりに 関わること</p>	<p>○思いやり、感謝 →思いやりの心をもって人と接するとともに、家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間愛の精神を深めること。</p> <p>○友情、信頼 →友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合うとともに、異性についての理解を深め、悩みや葛藤も経験しながら人間関係を深めていくこと。</p>	<p>●日々の生活の中にある人々の善意に気づくとともに、その人々に対して何をもって応えていくかを考えることができる豊かな情操と道徳心を培います。(第1号)</p> <p>●共に悩んだり葛藤したりする経験を振り返りながら、それを克服し、より深い信頼と敬愛に裏打ちされた人間関係を築き上げようとする態度を養います。(第1号、第3号)</p>	<p>●女子高生たちの親切 (p.16) ●黄色いお弁当箱 (p.204)</p> <p>●五月の風 (p.30) ●鏡の中の私 (p.100)</p>
<p>C 主として 集団や社会との関わりに 関わること</p>	<p>◎遵法精神、公德心 →法やきまりの意義を理解し、それらを進んで守るとともに、そのよりよい在り方について考え、自他の権利を大切に、義務を果たして、規律ある安定した社会の実現に努めること。</p> <p>○公平、公正、社会正義 →正義と公正さを重んじ、誰に対しても公平に接し、差別や偏見のない社会の実現に努めること。</p> <p>◎社会参画、公共の精神 →社会参画の意識と社会連帯の自覚を高め、公共の精神をもってよりよい社会の実現に努めること。</p> <p>◎勤労 →勤労の尊さや意義を理解し、将来の生き方について考えを深め、勤労を通じて社会に貢献すること。</p> <p>◎郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度 →郷土の伝統と文化を大切に、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬の念を深め、地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、進んで郷土の発展に努めること。</p> <p>◎我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度 →優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献するとともに、日本人としての自覚をもって国を愛し、国家及び社会の形成者として、その発展に努めること。</p> <p>◎国際理解、国際貢献 →世界の中の日本人としての自覚をもち、他国を尊重し、国際的視野に立って、世界の平和と人類の発展に寄与すること。</p>	<p>●自他の生活や権利を守るためには、法やきまりを守ることだけではなく、自分を裏切らない心が求められることを知り、それを遵守したり、よりよい在り方を考えたりすることを通して、規律ある安定した社会の形成に参画したり寄与したりしようとする態度を養います。(第3号)</p> <p>●いじめや差別・偏見などに対して、同調圧力に流されないで正義を通そうとする自分の意志を強くもったり、公平で公正な社会の実現に参画したり寄与したりしようとする態度を養います。(第3号)</p> <p>●自分自身がどのように社会に参画し、どのように連帯すべきかを深く考え、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与しようとする態度を養います。(第3号)</p> <p>●社会における自らの役割や将来の生き方について考えるとともに、職業と生活との関連を見つめ、勤労の尊さを考えながら社会に参画し、寄与しようとする態度を養います。(第2号、第3号)</p> <p>●地域に根ざした暮らしを見つめ、地域の実態を把握したり郷土の文化や先人の業績に対する認識を深めたりして、進んで郷土の発展に努めようとする態度を養います。(第5号)</p> <p>●我が国固有の伝統や文化を尊重し、それをはぐくんできた我が国を愛するとともに、それを継承し、新たな文化を創造したり発展させたりしようとする意欲と態度を養います。(第5号)</p> <p>●他国の暮らしや文化を知り、それを尊重するとともに、国際社会における共生と平和と発展に、日本人としてどのように寄与することができるかを考えようとする態度を養います。(第5号)</p>	<p>●誰が本当の作者？ (p.12) ●万引き (p.88)</p> <p>●豊かな阿賀の流れよ —新潟水俣病の苦悩をこえて— (p.36) ●僕たちがしたこと (p.150)</p> <p>●富士山の、消えた「白い川」 (p.26) ●ごみ収集車 (p.162)</p> <p>●あるレジ打ちの女性 (p.122) ●幻のノーベル賞 (p.186)</p> <p>●桑の都 (p.48) ●北限の稲作に挑む (p.94)</p> <p>●命に響く「雅楽」 東儀秀樹 (p.20) ●相撲 一体と心を鍛える国技— (p.174)</p> <p>●真の国際人 —嘉納治五郎— (p.66) ●平和への架け橋 (p.196)</p>
<p>D 主として 崇高なもの、 生命や自然、 関わりに関すること</p>	<p>◎生命の尊さ →生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重すること。</p> <p>◎よりよく生きる喜び →人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや高く生きようとする心があることを理解し、人間として生きることの喜びを見出すこと。</p>	<p>●生命あるものは互いに支え合って生き、また生かされていることを知り、その尊さに気づくとともに、命の偶然性や有限性、連続性を知ることを通して、生命のかけがえのなさについての考えを深めようとする態度を養います。(第4号)</p> <p>●人間の心が併せもつ弱さや醜さ、強さや気高さについて知り、それに正対しつつ、自分自身の心を奮い立たせることによって、目指す生き方や誇り高い生き方に近づこうとする豊かな情操と態度を養います。(第1号)</p>	<p>●和田真由美さんの手記 (p.114) ●心のおくりびと (p.192)</p> <p>●二人の弟子 (p.42) ●足袋の季節 (p.168)</p>

Ⅲ 上記以外に、特に意を用いた工夫

教育基本法第5条第2項及び学校教育法第21条に則り、道徳科で扱う内容項目等の効果的な学習を保証し、生徒の具体的な学習への取り組みを促すため、以下の工夫をしました。

□ 「いじめの防止」「安全の確保」の課題に正面から取り組む



さまざまな内容項目にわたり、「いじめ」に向き合う教材を多数用意しました。

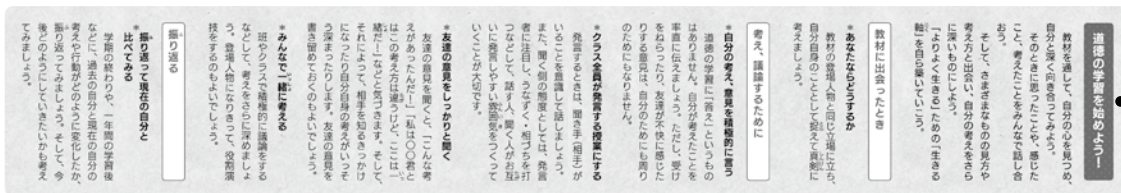
夏休みの前に安全で健康な生活について考えるページを設けました。

p.150



p.76-77

□ 授業の基盤となる「学級づくり」「道徳の授業を始めよう！」ページ



p.2-3

目次ページの下部に、道徳学習の流れを示しました。学習の進め方や、態度等の留意点について、学習の展開に沿って解説しています。



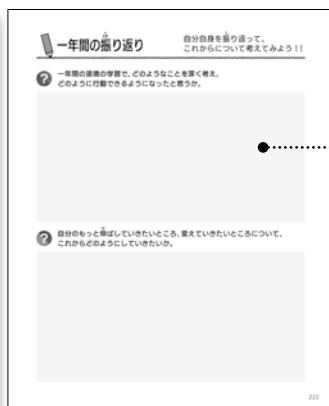
道徳科の指導の基本方針「信頼関係や温かい人間関係を基盤に置く」を受け、また、学校生活の全ての場面に生きる基盤形成のために、良好な学級集団の構築を狙ったグループワーク、「学級づくり」を各学年冒頭に設置しました。

p.4-5

□ 家庭教育と連携して道徳授業をつくる



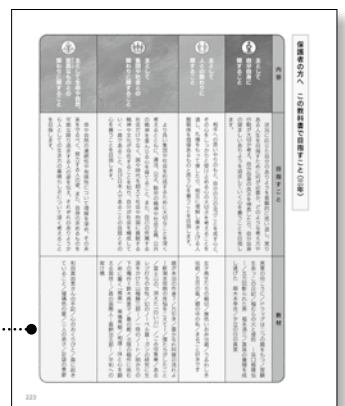
p.220



p.222

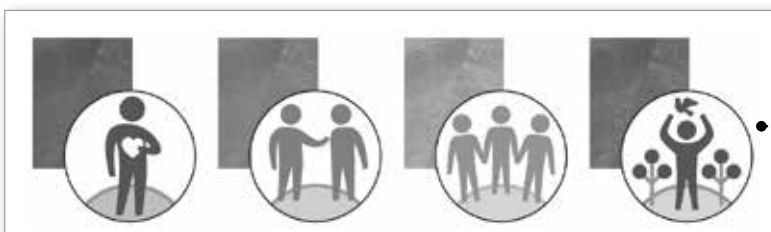
教材毎の振り返りや、一年間を通じた振り返りを書き込むスペースを設け、生徒の成長の様子を保護者に伝えるとともに、家庭と連携した総合的な指導を可能としています。

道徳科の授業において、どのようなことに対する考えを深めようとしているかを、保護者に向けて解説しています。



p.223

□ UDフォントなど、ユニバーサルデザインに配慮した紙面



教科書本文についてはUDフォントを用い、アイコンやイラストにおいてはカラー・ユニバーサル観点から色調を調整するなどして、誰もが見やすく分かりやすい教科書にしました。



編修趣意書

(学習指導要領との対照表、配当時数表)

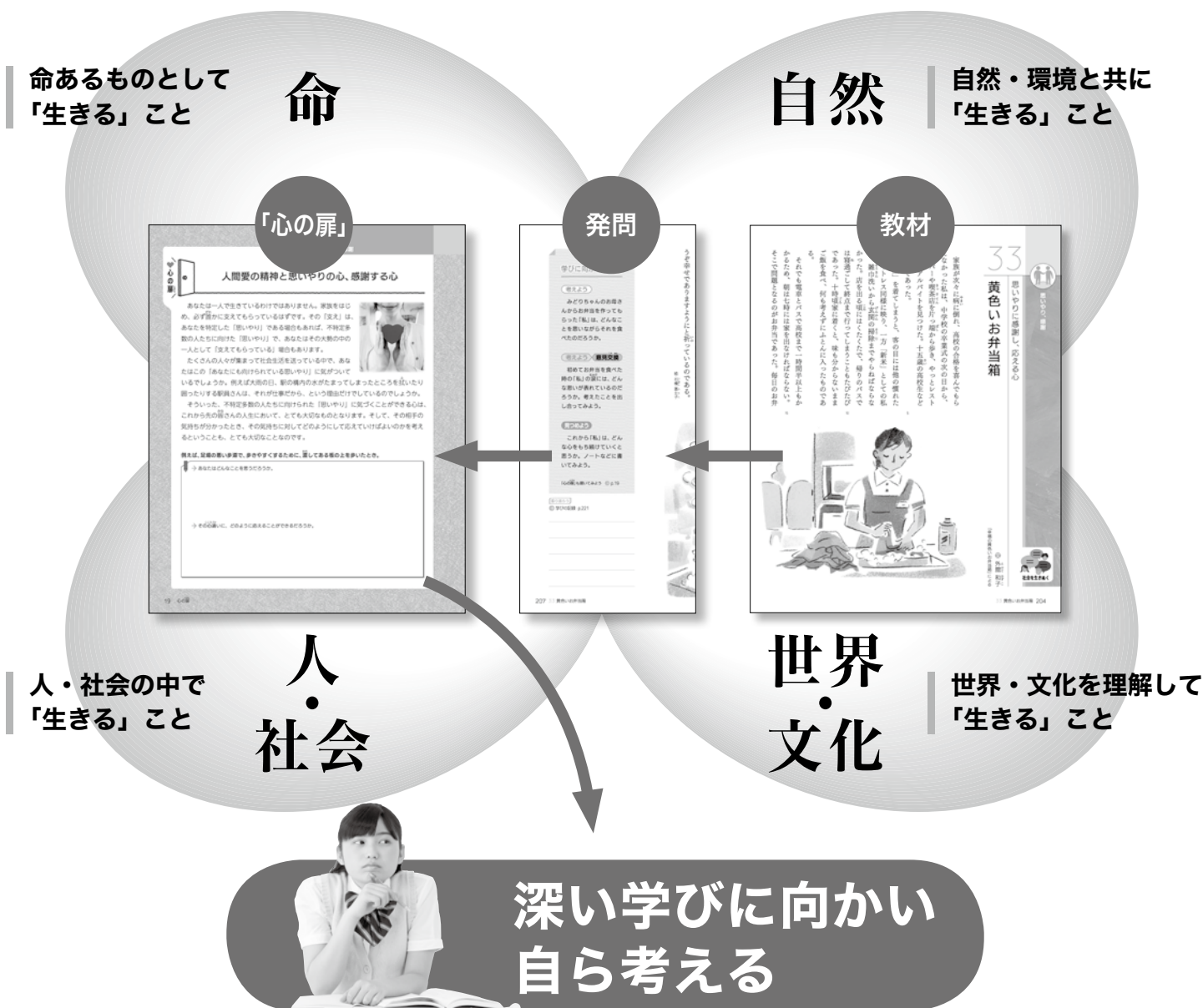
受理番号	学校	教科	科目	学年
29-68	中学校	道徳	道徳	3年
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
11学図	道徳 922	輝け 未来 中学校道徳 3年		

I 編修上特に意を用いた特色

自ら深い学びに向かい、「生きる」ことを自ら考える

— これからの、確かな道徳授業づくりのために —

以下の「四つのつながり」の視点を立て、「考える道徳」「議論する道徳」への転換を図ることを念頭に、生徒それぞれが課題意識をもち、道徳の価値に迫り、道徳的実践の意欲と態度を育てる教科書にしました。



“深い学び”のために、

「何を学ぶ」「どのように学ぶ」「何ができるようになる」が明確になるように、特に意を用いて編修しました。

1 何を学ぶ / 人間尊重、人間理解の精神を高める

いじめの防止



p.150

安全の確保



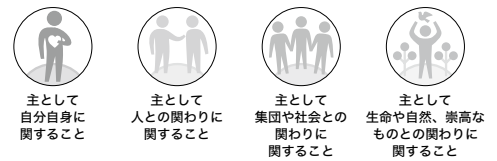
p.78

内容項目と現代的課題を縦横に盛り込んだ、魅力ある多彩な35教材を選定しました。「いじめの防止」と「安全の確保」に真正面から向き合う教材も扱っています。また、題材は、中学生の身近な経験から世界の現代的な課題をテーマとしたものまで幅広く取り扱っています。さらに、教材には課題マークを提示して、生徒が何を学ぶのが一目で分かるようにし、主体的な学びに導いています。



p.136

視点 四つの視点アイコンを四種のテーマカラーで表示。

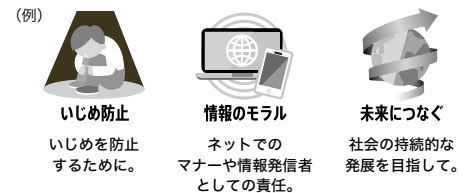


内容項目

主題 課題に向かう姿勢をつくる。

10のポイントマーク

発問からだけでなく、考えてもらいたい、現代的な課題などを網羅する10種のポイントのマーク。



p.76-77

夏休み前に
夏休みに健康で安全な規則正しい生活を促します。

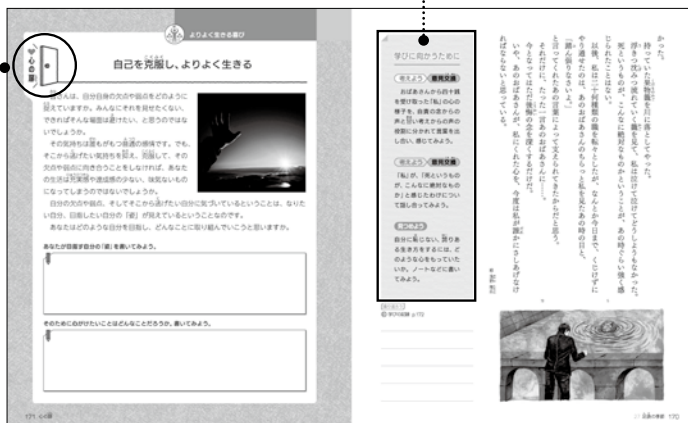
2 どのように学ぶ / 多様な考え方にふれ、生き方についての考えを深める

教材の最後には、発問のコーナー、「学びに向かうために」を設定しました。また、本文教材のほかに22の内容項目に対応するページ、「心の扉」をそえました。



心の扉

道徳的価値を深めたり、多面的・多角的なものの見方や考え方を促したりするページです。授業の導入、終末または家庭学習でも活用できます。



p.148・149

……**学びに向かうために**

課題を発見し、主体的な学びを導く発問を用意しました。ねらいの「ふれない」授業のために、基本—中心—後段の発問を提示しています。見方を広げたり考えを深めたりし、大事なことを自分自身のこととして見つめます。

考えよう

「基本発問」…教材にある大事なことに注目したり問題を見つけたりする問いかけ。

考えよう

「中心発問」…教材を通して、道徳的価値に最も迫ることができる問いかけ。

見つめよう

「後段の発問」…自らを振り返り、これまでの自己を見つめ、これからに活かす問いかけ。

3 \何ができるようになる / 自己を見つめ、明日からの自分に生かそうとする意欲を育てる



生徒が道徳的価値について自分のこととして捉えることができるよう、身近なことを問にした書き込みスペースを設けています。

自分を見つめ、自己の向上を図ると共に、個性を伸ばして自分らしく生きる

自分自身のよりよいあり方を考えるとき、それを磨き上げたいのは、自分だけでいいことではありません。自分自身を磨くことはとても大切なことです。時には友達同士が、交流を促し合ったり、また相手に負けないように、友達に負けないよう頑張る。あなた自身を磨き上げたいなら、友達に負けないよう頑張る。友達に負けないよう頑張る。友達に負けないよう頑張る。

自分に向けて書きたいことは何か。

友達に、一緒に書いてほしいと思うことは何か。

「こらありたいと思う(自分の夢)

学びに向かうために

なぜ福澤さんは、「読者を立てる読者」であるのか。読者を立てる読者であることは、読者にとって大切なことである。読者を立てる読者であることは、読者にとって大切なことである。読者を立てる読者であることは、読者にとって大切なことである。

自分の個性はどんなことにあるだろうか。その個性を生かすためにどんな気持ちをもっていたいだろうか。ノートなどに書いてみよう。

p.184・185

過去の自分、現在の自分、これからの自分について継続的に考えるための書き込みスペースを豊富に掲載しています。

見つけよう

大事なことを自分自身のこととして見つけ、今後活かす問いかけです。

(学びの記録から一年間の振り返りまで)

学びの記録(一学期)

この学期で学んだことを振り返って、自分の成長を振り返る。自分の成長を振り返る。自分の成長を振り返る。

この学期で学んだこと	自分の成長を振り返る
1. 道徳の学習を通して、自分の成長を振り返る。	
2. 道徳の学習を通して、自分の成長を振り返る。	
3. 道徳の学習を通して、自分の成長を振り返る。	
4. 道徳の学習を通して、自分の成長を振り返る。	
5. 道徳の学習を通して、自分の成長を振り返る。	
6. 道徳の学習を通して、自分の成長を振り返る。	
7. 道徳の学習を通して、自分の成長を振り返る。	
8. 道徳の学習を通して、自分の成長を振り返る。	
9. 道徳の学習を通して、自分の成長を振り返る。	
10. 道徳の学習を通して、自分の成長を振り返る。	

p.74-75

一年間の振り返り

自分の成長を振り返って、これからについて考えてみよう!!

1. 道徳の学習を通して、自分の成長を振り返る。自分の成長を振り返る。自分の成長を振り返る。

2. 道徳の学習を通して、自分の成長を振り返る。自分の成長を振り返る。自分の成長を振り返る。

p.222

教材ごとに書き込みスペースを設け、思ったこと・感じたことを授業の終わりや家庭で記録できるようにしています。また、学期ごとや1年間の学習後に、自分自身で行動や気持ちの変化を振り返ったり確かめたりすることができるようになっていきます。そして、そこから、これからの自分についても考えさせます。

★学びの礎を築くために

道徳、あるいはその他の教科の基礎となる、学びの姿勢を提示します。

道徳の学習を始めるためのヒント

- 道徳の学習は、自分自身を磨くこと、自分自身を磨くこと、自分自身を磨くこと。
- 道徳の学習は、自分自身を磨くこと、自分自身を磨くこと、自分自身を磨くこと。
- 道徳の学習は、自分自身を磨くこと、自分自身を磨くこと、自分自身を磨くこと。
- 道徳の学習は、自分自身を磨くこと、自分自身を磨くこと、自分自身を磨くこと。
- 道徳の学習は、自分自身を磨くこと、自分自身を磨くこと、自分自身を磨くこと。
- 道徳の学習は、自分自身を磨くこと、自分自身を磨くこと、自分自身を磨くこと。
- 道徳の学習は、自分自身を磨くこと、自分自身を磨くこと、自分自身を磨くこと。
- 道徳の学習は、自分自身を磨くこと、自分自身を磨くこと、自分自身を磨くこと。
- 道徳の学習は、自分自身を磨くこと、自分自身を磨くこと、自分自身を磨くこと。
- 道徳の学習は、自分自身を磨くこと、自分自身を磨くこと、自分自身を磨くこと。

p.2-3

道徳の学習を始めよう!

道徳の学習の大まかな流れを解説し、生徒一人一人が積極的に学びに向かうための、授業の取り組み方を提示しています。

キミの悩みは私の悩み

みんなも持っている同じような悩みは、共通することだからわかる。解決策を考えることも大事だけれど、まずは共通するところから始めてみよう。

1. 道徳の学習を通して、自分の成長を振り返る。

2. 道徳の学習を通して、自分の成長を振り返る。

3. 道徳の学習を通して、自分の成長を振り返る。

4. 道徳の学習を通して、自分の成長を振り返る。

5. 道徳の学習を通して、自分の成長を振り返る。

6. 道徳の学習を通して、自分の成長を振り返る。

7. 道徳の学習を通して、自分の成長を振り返る。

8. 道徳の学習を通して、自分の成長を振り返る。

9. 道徳の学習を通して、自分の成長を振り返る。

10. 道徳の学習を通して、自分の成長を振り返る。

p.4-5

学級づくり

互いを認め合い、主体的に関わり合って、誰もが発言できる教室をつくるために、楽しいグループワークを紹介しています。生徒同士の信頼関係や、温かい人間関係の構築をねらっています。

II 教科書の観点別特色

教育基本法の遵守	<ul style="list-style-type: none"> ●学校の教育活動全体を通して行う道徳教育の要となる特別の教科としての位置付けから、教育基本法第2条第1号から第5号までの全てを網羅し、その理念を全うすることを大前提として編集されています。
学習指導要領の遵守	<ul style="list-style-type: none"> ●中学校学習指導要領（特別の教科 道徳）に示された目標に則り、全ての内容項目の指導に最適な題材を用意しています。 ●中学校学習指導要領（総則）に示された、「指導内容の重点化への配慮」を受けて、重点化を図る内容項目については複数教材を配置しています。
内容・系統	<ul style="list-style-type: none"> ●本教科書には、生徒の道徳的価値への自覚を促す多彩な読みもの教材が用意されています。また、改正学習指導要領総則にある重点項目については複数教材を設けています。 ●発問には「考えよう」「意見交換」「見つめよう」と示したマークを置いて活動が端的にわかる工夫をしています。 ●本教材以外にも、道徳的価値に迫るためのページを設け、重点項目や現代的な課題にも対応しています。
配列・分量	<ul style="list-style-type: none"> ●読み取りの偏重から脱却し、「考える、議論する道徳」授業への転換を図りやすいように工夫しています。 ●35教材を設け、年間35時間分の道徳授業を保証しています。 ●学期毎に必ず四つの視点の学習がなされるように、バランスよく教材配列をしています。
「資質・能力」育成の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ●「個別の知識・技能」については、各内容項目ごとに設置した道徳的価値に迫るための活動場面において、生徒の個々の経験や現状を確認できるように配慮しています。 ●「思考力・判断力・表現力等」については、各発問に伴う言語活動として設定し、「道徳的課題に注目する発問」「課題についての見方を広げたり考えを深めたりする発問」「大事なことを自分自身のこととして見つめる発問」のそれぞれの場面で発揮できるようにしています。 ●「学びに向かう力、人間性」については、各教材の発問「見つめよう」において、自らのこれからの在り方を考える場面を設定しています。
学習方法・授業展開への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ●教科書の冒頭、目次の下に、「道徳の学習を始めよう！」等を配置し、アイコン、マークの説明と、道徳学習（指導）の進め方や授業展開の基本パターンを示しています。 ●各教材の発問には、「考えよう」「見つめよう」等のマークを付け、学習活動を明確に提示しています。
問題解決的、体験的な活動の取り上げ方	<ul style="list-style-type: none"> ●問題解決的な学習、体験的な活動については、教材の特性に合わせて発問を工夫し、役割演技なども取り入れています。
「いじめ」問題の取り上げ方	<ul style="list-style-type: none"> ●各学年ともに、特に「公正、公平、社会正義」の内容項目においては意識的に教材を選定し、いじめにつながる問題に正対して考えるように配慮しています。また、それ以外の内容項目においても、生徒の学校生活の中で陥りやすい場面を積極的に取り上げ、常に気をつけなければいけないこととして認識できるようにしています。（例：「僕たちがしたこと」「鏡の中の私」）
「伝統・文化」の取り上げ方	<ul style="list-style-type: none"> ●長く親しまれ、続いてきた伝統文化とともに、意識的に守り続け価値づけていく伝統文化を取り上げ、文化の担い手としての意識を高める教材を配置しました。（例：「命に響く『雅楽』東儀秀樹」「桑の都」ほか）
現代的な課題の取り上げ方	<ul style="list-style-type: none"> ●【情報モラルの問題】 各学年に、「自主、自律、自由と責任」等の内容項目にからめて、情報モラルの問題を過不足なく扱っています。（例：「言葉の向こうに」「ネット将棋」「鏡の中の私」） ●【生命尊重】 自分の「命」のかけがえのなさについてしっかり認識できるように、さまざまな内容項目に渡って扱っています。（例：「和田真由美さんの手記」「心のおくりびと」） ●【安全の確保】 各学年ともに、「節度、節制」等の内容項目において、防災や災害関連の教材を導入しています。（例：「稲むらの火と堤防」「ドラッグは二つの顔をもつ」） ●【キャリア教育】 教材を通して、労働の尊さや、勤労の意義を考えさせるような作品を選定しました。（例：「あるレジ打ちの女性」） ●【五輪教育】 オリンピック・パラリンピックをはじめとするスポーツに関わる題材を積極的に取り入れ、内容項目とからめて、2020年の東京大会に向けた生徒の関心の高まりに応えています。（例：「真の国際人 一嘉納治五郎」ほか） ●【ESD】 持続可能な発展に関わる題材についても留意して取り上げ、将来を見据えた見方・考え方ができる教材を導入しています。（例：「森に起きていること」「北限の稲作に挑む」）
他教科と実生活との関連	<ul style="list-style-type: none"> ●全ての教科の基盤となる、互いを尊重し合う学級集団形成のための「学級づくり」ページを、各学年冒頭に設置しています。 ●国語、社会、理科、家庭、音楽など、他教科と関連する題材を積極的に取り入れています。 ●特別活動と関連して、学校行事をはじめ、学校以外でのボランティアなどの集団活動に関わる教材を取り入れています。 ●学校生活や家庭生活における日常の場面、近隣や地域の人々との関わり等を多数取り入れ、生徒が現在の生活を見つめたり、これからの生活を考えたりすることができるよう配慮しています。
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ●「学びの記録」ページを設け、生徒が書き込みをした教科書を持ち帰り、学校での学習を家庭や地域と共有することができるようにしています。また、各学年とも巻末には、「保護者の方へ」のページを設け、て学年の学習内容を解説しており、家庭教育との連携を図ることも考慮しています。
ユニバーサル・デザイン、特別支援教育との関連	<ul style="list-style-type: none"> ●カラーユニバーサルデザインの観点から、全ページにわたり配色とデザインに十分な配慮を施しています。 ●本文の主体文字にはUDフォントを用い、視認性と読みやすさの向上を図っています。 ●中学校配当漢字と常用外漢字及び固有名詞等についてはその都度ルビを付け、生徒の読みの負担を軽減しています。
文字・印刷・造本等	<ul style="list-style-type: none"> ●環境への配慮から、環境に配慮した紙と植物油インキを用いています。 ●読みやすさの向上のために、紙面の広いA B判を採用するとともに、堅牢性を向上させた無線綴じで製本してあります。

Ⅲ 教材一覧表

3年 配当時数：35 時間

配当月	配当時数	主題	教材名	学習指導要領の内容項目	ページ
4月	1	結果を考え判断する	言葉の向こうに	自主、自律、自由と責任	6
	1	自他の権利を考え、きまりを守る	誰が本当の作者？	遵法精神、公德心	12
	1	他者への心遣い	女子高生たちの親切	思いやり、感謝	16
5月	1	伝統の継承と新たな創造	命に響く「雅楽」東儀秀樹	我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度	20
	1	よりよい社会の形成のために	富士山の、消えた「白い川」	社会参画、公共の精神	26
	1	性別を越えて友情を深める	五月の風	友情、信頼	30
6月	1	正義と公正さを重んじ、差別や偏見をなくす	豊かなれ阿賀の流れよ —新潟水俣病の苦悩をこえて—	公正、公平、社会正義	36
	1	弱さや醜さを克服する	二人の弟子	よりよく生きる喜び	42
	1	先人の努力と思いを受け継ぐ	桑の都	郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度	48
	1	心身の調和を図る	受験生あっこの日記	節度、節制	54
7月	1	自然保護のありかたを考える	森に起きていること	自然愛護	60
	1	国際的な視野に立つ	真の国際人—嘉納治五郎—	国際理解、国際貢献	66
9月	1	安全に配慮し、将来に備える	稲むらの火と堤防—浜口梧陵伝—	節度、節制	78
	1	礼儀の意義	うるわしき伝統	礼儀	84
	1	自分を裏切らない	万引き	遵法精神、公德心	88
	1	郷土を愛し、その発展に努める	北限の稲作に挑む	郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度	94
10月	1	信頼し合って友情を深める	鏡の中の私	友情、信頼	100
	1	疑問や問いを探究し続ける	夕立の日の真実	真理の探究、創造	108
	1	命あるからこそその尊さ	和田真由美さんの手記	生命の尊さ	114
	1	将来の生き方を考える	あるレジ打ちの女性	勤労	122
11月	1	自らを律し、正しく判断する	ドラッグは二つの顔をもつ	自主、自律、自由と責任	130
	1	集団における自分の役割	明かりの下の燭台—鈴木恵美子	よりよい学校生活、集団生活の充実	136
	1	個性を尊重し、謙虚に学ぶ	まるごと好きです	相互理解、寛容	144
	1	いじめを許さず、正義を実現させる	僕たちがしたこと	公正、公平、社会正義	150
12月	1	希望をもってやり遂げる	真珠の養殖を成し遂げた御木本幸吉	希望と勇気、克己と強い意志	154
	1	連帯してよりよい社会を実現させる	ごみ収集車	社会参画、公共の精神	162
	1	良心に従って生きる	足袋の季節	よりよく生きる喜び	168
1月	1	伝統を守り継承する	相撲—体と心を鍛える国技—	我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度	174
	1	個性の生きた、充実した生	五万回斬られた男 福本清三	向上心、個性の伸長	180
	1	働くことに意義を感じ、社会に貢献する	幻のノーベル賞 —ガンの研究に生涯をかけた山極勝三郎—	勤労	186
2月	1	命の尊厳	心のおくりびと	生命の尊さ	192
	1	世界の平和に貢献する	平和への架け橋	国際理解、国際貢献	196
	1	思いやりに感謝し、応える心	黄色いお弁当箱	思いやり、感謝	204
3月	1	祖父母を敬愛する	一冊のノート	家族愛、家庭生活の充実	208
	1	感動する心を見つめる	瑠璃色の星	感動、畏敬の念	216